

かなまる。個展 | みちしるべ

2024.10.19-11.4 Gallery2122

かなまる。さんインタビュー

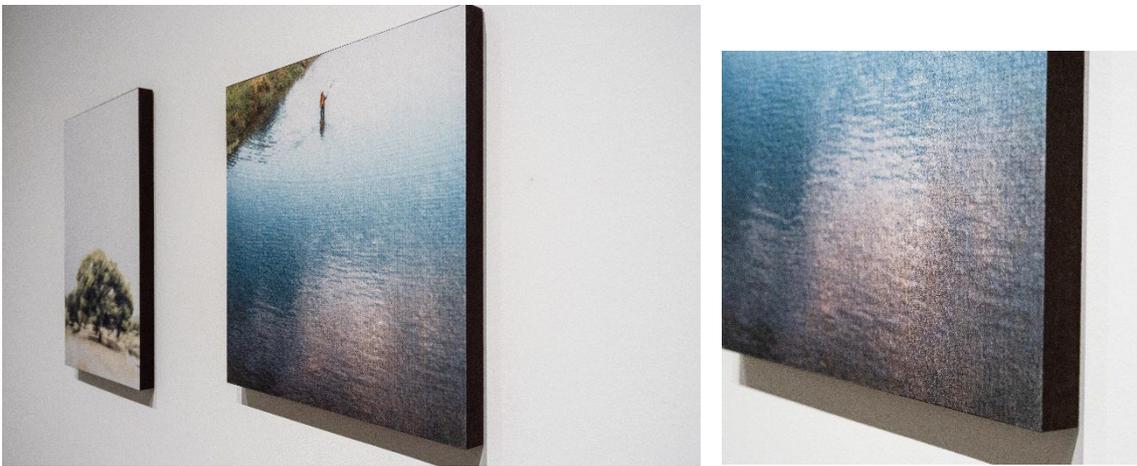


—かなまる。さんのこれまでの制作活動についてお聞かせください。

高校時代に油絵と日本画を専攻していて、写真は絵の素材として撮っていました。ある時から、絵と同じように写真でも表現ができることに気づき、絵の世界から離れて作品を撮り始めました。その中で、写真という媒体が、眼で見た時よりも写りこむ情報量が多いことに違和感を持ち、自分の記憶により近いものを表現するにはどうしたらいいのだろうと考えました。そして、写真と絵画の境界に自分が思い描いているものがあるのではないかと思います。それ以降、制作のテーマにしながら表現を模索しています。

—模索するなかで、どのようなことを実践されましたか？

プリンターを思い切って購入し、様々な紙に同じ写真を試し刷りしたことがありました。その時、和紙に刷った写真が、油絵で描いたテクスチャーとすごく似ていることに気づいたんです。ただ、和紙に出力しただけでは、まだ鮮明な写真のままで、目に入る情報をもう少し抽象的にできないかなと思って。和紙に出力した紙を更にカメラで撮影して、それをまた和紙で刷って、ということを繰り返してみました。そうすると意図しないインクのにじみや、層ができて、自分が求めていたイメージに近づいてきました。



《aozora》2024 Re:photograph 木製パネル・和紙・フレスコプリント

—何度も同じ写真を繰り返し撮影されたんですね。

はい。それで自分の中で表現がいったん確立したのですが、100 作品くらいこのシリーズをつくっていくうちに、どんどん型にはまっていくような感覚がしました。風景を見ただけで、完成した作品が思い浮かぶような。そんな状態が続き、先が見えなくなってしまうので、思い切ってルールを外れてみようと、いろいろ実験を始めました。そして一度、自分の作品を俯瞰して向き合いたくなり「みちしるべ」という個展を行うことにしました。Vol. 1 と記載したのですが、本当は Vol. 0 のような気持ちです。

—作品の表面が毛羽立って見えるのですが、印刷にはどのようなものを使用されたのですか？

完成に至るまでは、和紙を使用しているのですが、最終的に壁紙に出力してみました。理想のテクスチャーに辿り着くまでかなり時間がかかりました。

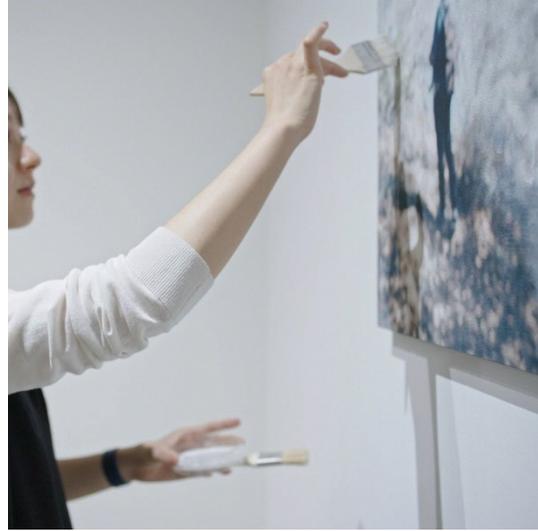
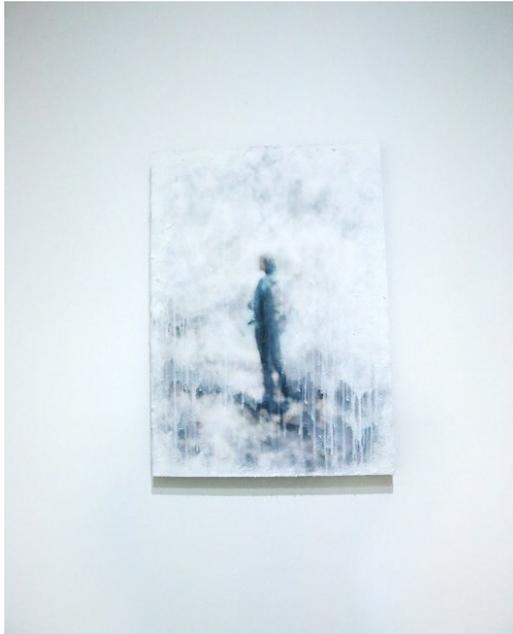
—100 作品から展示するものを選ばれたとのことですが、今回の作品はどのように選んだのでしょうか。

私がふとした瞬間に見た、日常の断片的な部分をピックアップしました。特別な風景よりも、自分が見てきたものが結果として未来につながっていくことを表現したくて。

—今回の展示では、会期中に変化していく作品がありましたね。

完成されたものよりも、それらが出来る過程こそが本当の姿だといつも考えています。今回は DM のビジュアルにも使用した写真を会期中に変化させていきました。

この作品は、太陽の光が降り注いでいるなか、友人の後ろ姿を撮影した作品です。ギャラリーの白い壁も含めて一つの作品として成り立つように制作しました。当時見た記憶に残る情景へと近づけるために、会期中は毎日、液を何度も塗り重ねていきました。その過程で当時の記憶が蘇ってくる、そんな貴重な体験にもなりました。



《michishirube》2024 Re:photograph、painting 木製パネル・和紙・フレスコプリント・ジェッソ

—**展覧会タイトル「みちしるべ」に込められた想いをお聞かせください。**

タイトルは、展覧会を開催するうえで一番悩みました。もともと言葉で表現できない、自分の中に確かにあるものを絵や写真で表現してきたのですが、いざそれにタイトルをつけると、その言葉に頼り、発想の余地がなくなるようで抵抗感があったんです。今回の個展は、人に見てもらおうと同時に、自分の作品を俯瞰して見て、これからの表現を探るために行ったものでもあります。作品と作品が並びあって、それが私自身のみちしるべになってくれたらいいな、という思いを込めました。

—**展示を開催して、印象的だった人との出会いはありましたか？**

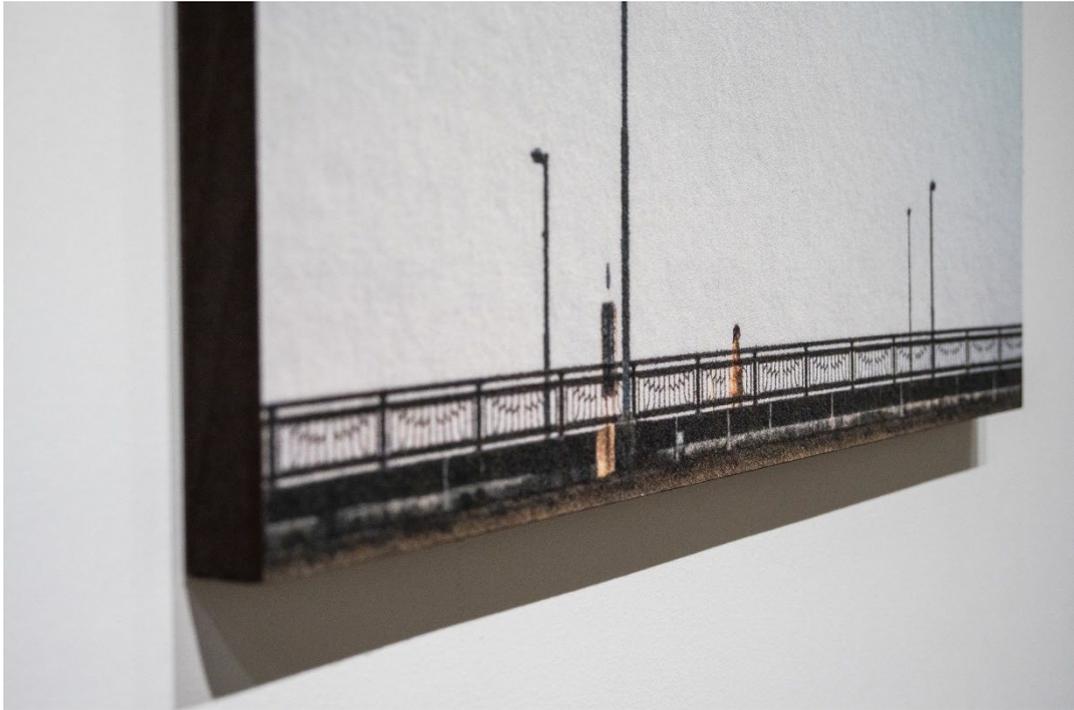
たくさんの地域の方との出会いがありました。なかでも印象に残っているのは、「どうして表現をするの？」という質問を投げかけてくださった方です。その時はすぐに答えられなかったのですが、この展覧会を通じて、自分の輪郭をとらえるために表現しているのかな、ということに気づくことができました。



《kibou》2024 Re:photograph、painting 木製パネル・和紙・フレスコプリント

—今後の活動の展望について、お聞かせください。

会期中、入り口に展示している《kibou》と対面するなかで、これからの制作活動にはっきりとした目標が得られました。これまでは、風景や、記録写真のようなものを中心に発表してきました。誰かを思い出すとき、相手の目や表情など、細かなディテールが思い出せなくても、感じる気配や印象があると思います。そのような感覚をしっかり捉え、作品として残していきたいです。



また、作品が作品として歩いていくだけでなく、様々なメディアで生きるものをつくることも課題としています。本や商品パッケージ、アーティストの CD ジャケットなど、アーティストとデザイナーとして担当することが夢です。

(取材日：2024 年 11 月 4 日)

かなまる。 | kanamaru.

1999 年京都生まれ。高校で油画を学ぶ。

後に写真表現の世界に魅了され、「描く」から「写す」世界へ移る。

高校卒業後、美術大学で主にグラフィックデザインを学びながら自主的に写真表現に取り組む。卒業制作では、『写真と絵画の境界』をテーマに探究し制作。

現在は、デザイナー兼フォトグラファーとして活動しながら制作し続けている。